

## 岩手医科大学歯学会第37回総会抄録

日時：平成23年12月3日（土） 午後1時より

会場：岩手医科大学歯学部第四講義室

### 特別講演 I

知ってる？知らない？放射線の話

東海林 理

岩手医科大学歯学部総合歯科学講座  
歯科放射線学分野

世界で唯一原子爆弾が投下された国である日本に住む我々は、「ひばく」という言葉にとっても敏感です。2011年3月11日の東日本大震災により、福島第一原子力発電所事故が引き起こされて以来、放射線に関する情報があらゆるメディアから流されています。また最近では民家の地下から放射性物質が発見されたり、スーパーマーケットの駐車場で高い値の放射線量が計測され、日本全国で放射線、放射能、ベクレル、シーベルト、放射性セシウム、放射性ヨードなどの用語が錯綜しています。しかしマスコミで毎日伝えられている放射線に関する「用語」や「数値」についてどれ位理解がされているでしょうか？

Röntgen がエックス線を発見して以来、「レントゲンなくして医学なし」とまでいわれその言葉の意味は21世紀の現在でも強く生きています。歯や硬組織疾患を扱っている我々歯科医師は、特にその恩恵を受けているといえます。しかし時として患者さんから、「歯科医院でたくさんエックス線写真を撮られたのに大丈夫ですか？」などの相談を受けることがあり、そのような疑問についてわかりやすく説明する必要に迫られます。

そこで、今回は放射線についてのベーシックな事項や、現在新聞紙面を賑わせている用語、インフォームドコンセントに必要な数値について、放射線の専門家の立場で解説したいと思います。

### 特別講演 II

口唇口蓋裂の乳幼児から成人までの一貫治療

金野 吉晃

岩手医科大学歯学部口腔保健育成学講座  
歯科矯正学分野

口唇・口蓋裂は日本における先天異常発生頻度の第4位であり、500人に一人の割合で出生するとされる。

本学歯科医療センター矯正歯科では、本学の口腔外科、形成外科、NICU、小児科、開業医、県内の各病院から、口唇・口蓋裂を有する乳幼児の紹介を受けている。平成22年は、紹介された乳児新患が42名を数え、例年になく多かった。

我々の基本的方針は、乳幼児から成人までの一貫した治療体制であり、各成長段階における患者と家族のQOLをサポートし、成人期には社会生活への不安が無い状態をつくることにある。そのためには乳児期からの治療が重要であると考え、すなわち患者家族とのラポール形成を図り、哺乳障害を解消し（できれば完全な母乳の直接授乳へ）、術前顎矯正（PNAM: pre-surgical naso-alveolar molding）によって形成手術を助け、それに続く長期間の治療にスムーズにつなげて行く事である。しかし、問診時、生後三か月間の貴重な時期についての医療知識、哺乳指導の欠如、誤謬が散見されるのは遺憾な事である。

今回の講演では、乳幼児期の治療、食生活や言語など機能的発達に即した関連疾患への予防管理、成長期に併せて施行される各種手術、それに関わる矯正歯科医の役割、そして補綴への橋渡しといった問題と症例を提示する。

特にPNAMは、日本では多くの外科医の支持があり導入する医療機関が増加している。乳